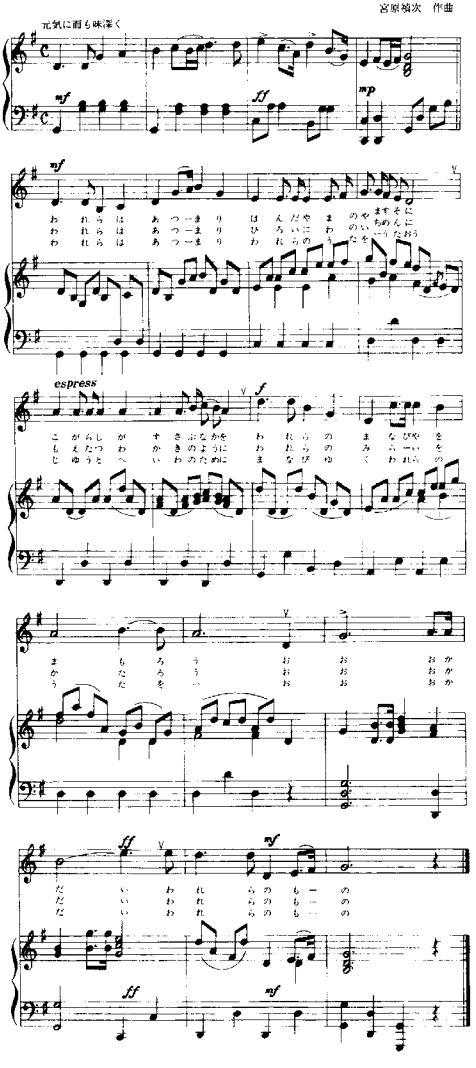
岡山大学学生歌

作詞　三沢信弘
作曲　宮原禎次

一，
われらはあつまり
はんだ山の山すそに
こがらしがすさぶ中を
われらの学舎を守ろう
おお岡大われらのもの

二，
われらはあつまり
ひろい校庭の一面に
もえたつ若木のように
われらの未来を語ろう
おお岡大われらのもの

三，
われらはあつまり
われらのうたをうたおう
自由と平和のために
まなびゆくわれらのうたを
おお岡大われらのもの



本学の学生歌は昭和28・30・32年度にそれぞれ一編ずつ作られたが，これはすべてまず学友会委員の提起により，これを厚生補導部（現学務部）がとりあげ，両者によって進められたものである。学生歌の成立にふさわしい動機と過程であった。

まず昭和28年度に学友会委員から学生歌を作成したいとの意向がでたので，一般学生からその歌詞を懸賞募集することになった。募集の主旨は「みんなで歌える歌，創設期を脱してさらに発展をめざすとき，躍進岡大を象徴するもの」であり，応募作品は14編あったが，選考の結果，現在学生に愛唱されている三沢信弘作詞のものに決定した。そのときの賞金は千円であった。作曲はこの種の作曲に定評のある宮原禎次ＮＨＫ嘱託に水野教授の紹介で依頼した。

この学生歌は，本学が創設期を脱し，さらに発展をめざす時期に作られたものであるため，歌詞・楽曲ともに躍進感にあふれ，かつ力強く簡潔な歌となっており，以来本学の入学式・卒業式にはもちろん，その他の行事にも広く学生に愛唱されている。

その後，昭和30年度及び32年度にも前例に従い学生歌が作られた。昭和30年度学生歌は，一応の安定期を迎えた本学を象徴して，作詞・作曲共に柔和な幸福感にみちたものとなっている。昭和32年度学生歌は，再び行進曲調の力強い躍動感の中にも荘重さを兼ね備えたもので，本学のより高い発展を暗示するかのようである。このようにして過去３編の学生歌が作られたが，曲がむずかしいためか現在では最初のものが岡山大学学生歌として歌われている。